

令和4年度 ICT活用実践研究 実績報告書

所属校園	附属旭川中学校		形態	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 団体・グループ
研究代表者 (申請者)	氏名		職名	備考(分担等)
	嶋田 善行		教諭	研究主任 道徳教育推進教師
研究分担者 (団体・グループの場合)	林 亮輔		教諭	研究部, (前年度) 道徳教育推進教師 研究部
	吉田 雅風		教諭	
研究題目	ICTを利活用し, 本校と他校をつないだ研修や授業支援の在り方 ～効率的な研修機会や, 他校との協働的な授業を生み出す取組～			
経費支出内訳				
事項	単価 [円]	員数	金額 [円] (消費税込)	備考 (内訳・特記事項等)
外付HDD	26,900	1	26,900	
コンデンサマイク	7,700	3	23,100	
		合計	50,000	

【研究実績の概要, 得られた成果・効果等】

1 研究概要, 研究目的, 研究方法

(1) はじめに

令和4年度の教育公務員特例法の改正により, 令和5年4月から, 各教員の研修履歴は記録され, この記録に基づき教員の資質向上に関する指導助言等を行う仕組みが制度化されました。この新たな研修制度を推進するため, 国では, 教員の個別最適な学び, 協働的な学びを実現させる新たな研修制度の開発を進めています。

日本最北の附属学校である本校は, 北海道の特徴である「広域分散型」が顕著に見られる“道北地区”に位置しています。当地区では, 急速に少子化と過疎化が進む中であって, 学校規模も縮小傾向が見られますが, 学校の果たすべき役割が減っているわけではありませんので, 教員一人当たりの業務は増えることはあっても減っていないのが現状です。

このようなことを背景として, この地域の学校に勤務する教員は, 研修地に赴く時間やコストなどのマイナス要因に加え, 研修に参加しているあいだの補欠などの要因が複合的に関連し合い, 研修に出ることが難しい実態があります。

これらに加えて, 3年間に及ぶ「コロナ禍」も重なり, 安全面からも研修に参加できない状況となりました。このような状況や課題を克服し, 実践的な指導力を高めるための“新たな支援と役割”が附属学校には求められていると考えています。

(2) 研究の概要

【取組1】単元及び題材全体の公開

教科指導を主とする中学校における“新たな支援と役割”として, これまでのように“完成

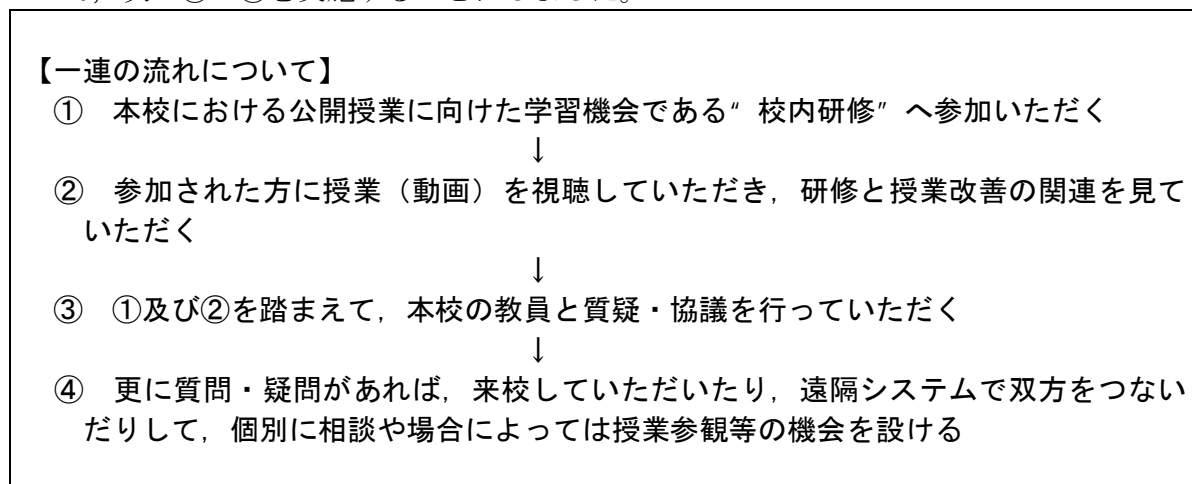
形としての1単位時間の授業を公開する形式”にとどまることなく、単元及び題材全体でどのように指導しているのか、それぞれの段階的・系統的な指導、そのプロセス全体を紹介することを考えました。

1単位時間だけではなく、単元及び題材における指導全体をご覧いただくことで、指導の具体について知っていただくことができます。このような機会の設定です。

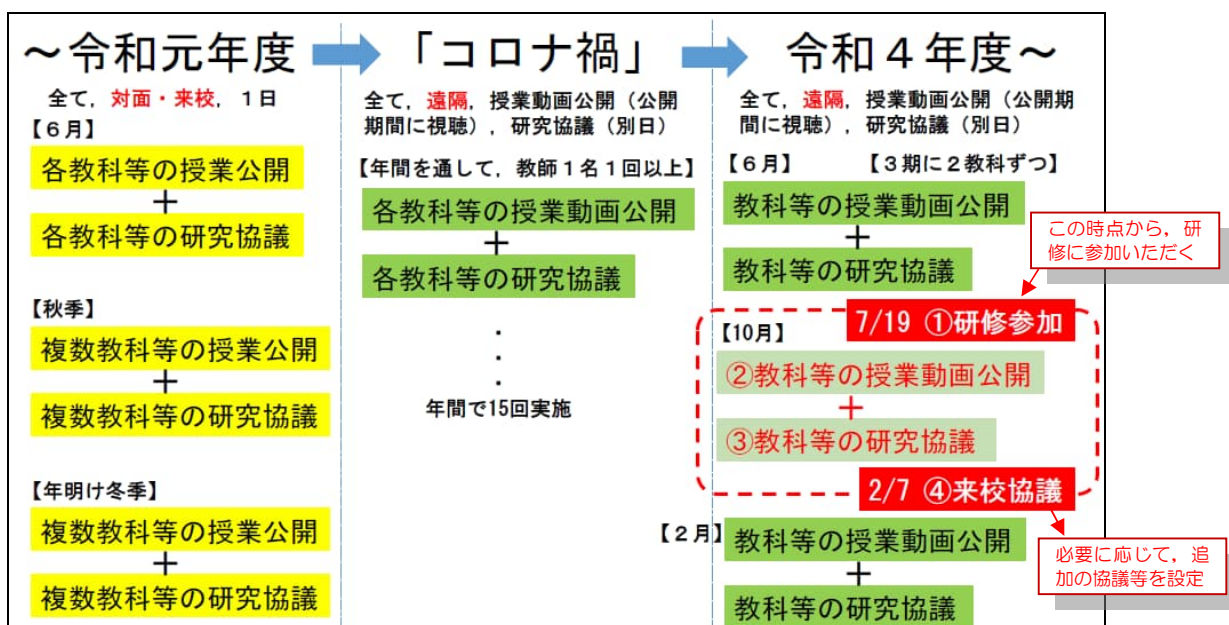
【取組2】本校の校内研修への参加

もう一つは、附属教員である私達自身が、日頃、どのように授業改善や研究のための（校内）研修を進めているのか、そのプロセス自体を公開することにしました。公開授業の1単位時間だけではなく、その時間を生み出すための研修内容そのものを見ていただきたいと考えています。しかしながら「コロナ禍」となり、この時期、対面及び来校していただくことは、一層難しくなりました。

本稿では、主として【取組2】について紹介します。著しく普及が進む遠隔システムを活用し、北海道の特徴でもある広域分散型を克服することも含めて、校内研修に関わる取組の具体について、次の①～④を実施することにしました。



【これまでの本校における授業公開，本実践のイメージ】



↑ 動画は全教科等【取組1】としました。

2 実践の実際

(1) 校内研修への参加

本年度は、附属旭川小中合同で、令和4年10月14日に実施する「授業実践交流事業・授業力向上セミナー（道徳の時間）」にあわせて取り組みを進めることにしました。

【事例】

①：令和4年7月19日 道徳教育に関わる講師講話

「道徳教育充実のために」講師：北海道教育大学旭川校教職大学院
特任教授 水上 丈実 様

附属旭川小中合同の（合同研修）

+

留萌管内道徳教育研究会（会長：池田 和人様, 留萌市立港南中学校長）

Zoomで参加

留萌管内16小・中学校から35名の方が参加

※参加校：天塩町立天塩中学校，遠別町立遠別中学校，初山別村立初山別中学校，
焼尻町立焼尻小中学校，羽幌町立羽幌小学校，羽幌町立羽幌中学校，
苫前町立苫前中学校，小平町立小平小学校，留萌市立港南中学校，
留萌市立留萌小学校，留萌市立緑丘小学校，留萌市立潮静小学校，
留萌市立港北小学校，留萌市立留萌中学校，増毛町立増毛小学校，
増毛町立増毛中学校

※ 当該研究会においては，秋季に管内で道徳の時間の公開授業を予定
されており，その参考として管内をあげて今回参加されました。



②，③：令和4年10月14日 「授業実践交流事業・授業力向上セミナー（道徳の時間）」

・附属小学校 授業公開・研究協議

・附属中学校 研究協議

Zoomで参加

留萌管内道徳教育研究会からも参加



④：令和5年2月7日 留萌管内道徳研究会から会員が、本校及び附属小学校を**来校**され、
②道徳の時間の“特設”授業（2回目）及び授業者（本校の前年度・道徳教育推進教師）と**対面**で研究協議を行いました。

附属旭川小：第6学年 指導者 成田 翔 教諭（道徳教育推進教師）

第5学年 指導者 菊田 康平 教諭

附属旭川中：第1学年 指導者 林 亮輔 教諭（前年度・道徳教育推進教師）



授業参観の様子です。→

← “特設”の授業参観前に，授業者からポイント等について説明しています。



“特設”の授業参観後に，授業者と質疑，協議を実施しました。→



3 得られた成果・効果等

(1) 参加者の声（研究協議から）

- ・（附属旭川）小・中の授業を2回見ることができて、深く考え、課題意識を持つことができました。小学校においてはICT機器やアプリの利活用についても見ることで、日常的に児童が使用していることに驚きました。
- ・授業では、表面的にではなく、深く考えさせる発問や投げかけが、多くあり大変示唆に富み、とても参考になりました。やはり教師のポイント設定と日々の積み重ねが大事であると感じました。
- ・中学校は、非常に深く考え、生徒自身が活発に発言している様子が見られ、自校においてもこのようにしていかなければと考えさせられました。日常的に今求められる対話的な場面を多く取り入れている成果ではないかと受け取りました。
- ・中学校において、学校全体で取り組んでいる、学級担任に指導を固定しない“ローテーション指導”の試みは大変参考になりました。どの学校にも当てはまるかもしれないですが、一人の教師が続けて指導することのメリットとデメリットがあり、今回の授業を見て、ローテーションは生徒の恩恵も大きいと感じました。
- ・本年度は複数回、継続的に授業を見たり、本日のようにお話ししていただける機会があったりして、広く深く道徳教育について考えることができ、とても刺激になりました。

(2) 今後について

国は、令和5年の4月から“学校現場におけるマスクの着用”を含む、新型コロナウイルス感染症への対応を大きく変更します。

「コロナ禍」の3年間に比べて、校外研修に出やすくなることは予想されますが、実際に勤務地を離れて研修に参加できることに直結するかは未知数です。もう一方に学校規模の縮小による教員の業務量の増加や北海道の特徴である広域分散型があるからです。

例えば、1単位時間（50分の授業公開）を参観するために、本校まで往復3時間以上費やして、おみえになる先生も少なからずいらっしゃいます。

このような実態を鑑み、課題を克服するために本校においては普及するICT機器と遠隔システムを積極的に活用する取組を今後も進め、日本最北の附属学校の使命として、地域の学校にとって有益な情報を発信していくことに努めたいと考えています。